

九月・秋のお彼岸

お彼岸の思い出。住職が学生の頃、京都の東山にある大谷祖廟という真宗大谷派(お東)の墓地でアルバイトをしていました。なぜ本願寺派ではなく大谷派なのかと言うと、大谷大学の知り合いから頼まれたからなのです。お経のリズムや節(ふし)が違って、必死に練習したことを覚えています。ふだんは事務所でお参りの受付などをしながら、依頼があればお墓の前でお経を読むのが仕事でした。

あるお彼岸の日、私がお墓の前でお勤めをしていると、テレビニュースの取材が入り、目の前でテレビカメラが回り始めました。いつもはお経の本を開いてお勤めをするのに、その日に限



って経本を持たず、「こゝげんぎょぎょ」とお勤めをしていたのです。讃仏偈は全部覚えていたので、目をつぶっていても大丈夫なのですが、カッコよく映りたいとか、良い声を出そうとか、いろいろなことを考え出した途端、お経がわからなくなってしまう。長い沈黙のあと、また最初から「こゝげんぎょぎょ」と始める始末。格好悪いやら恥ずかしいやら。たぶんお参りの人やテレビ局の人にはバレていたと思います。残念ながら私はテレビに映ることはありませんでした。

お釈迦さまの弟子に周梨槃特(しゅりはんどく)という人がおられます。物覚えが悪く、お釈迦さまから一本のホウキを与えられ、毎日毎日「チリを払い垢(あか)を除こう」と言いながら一心不乱に掃除を続けていました。そうして、ついに、汚れているのは「自分の心」だと気づいたのだそうです。

お経を読みながら、余計なことを考えてしまった私の心は、まさにチリが積み垢にまみれていたのではありませんか。そのチリや垢がなくなったのかと言え、ますます高く積み深くなり固まっているようです。別のことを考えて、時々お経を間違えることもあり。どうか笑って許してね。(住職)

9月(長月)

- 二日(火) 第2連区研修(住職)
- 三日(水) 教区鑽仰の集い
- 一三日(土) 教令講師研習
- 一四日(日) 教令講2日目(午前)
- 一四日(日) 南組実践運動研修
- 一五日(月) 山科別院念仏奉仕
- 二〇日(土) お講 十一時
- 二三日(祝) お彼岸
- 二八日(日) 門信徒講座(尼子)
- 南組物故者追悼法要

報恩講のお知らせ(十月予告)

- ・すすはき 一九日(日)午後
- ・幕吊り・お花立て(役員・年行司) 二四日(金) 一三時
- ・報恩講
- 大速夜 二五日(土) 一三時半
- お初夜 一九時半
- 満日中 二六日(日)朝9時半

大速夜のご講師は、『お見合い300回にうんざりしてアメリカに家出して僧侶になって帰ってきました。』(幻冬舎)他の著者で、京都大行寺ご住職の**英月さん**です。どうぞ、みなさんお繰り合わせお誘い合わせの上、お参りください。お初夜、満日中は、住職がお取次します。

柳川修一さんがご往生されました

門徒の柳川修一さんが、七月二十九日にご往生されました。修一さんは、本堂の屋根を葺き替えた時に門徒総代を勤めてくださるなど、お寺の護持に熱心に取り組んでくださいました。とりわけ、門徒の皆さまから大きなお金を預かっての大事業でしたのでご苦勞も多かったと思いますが、お陰さまで無事に工事を完遂していたことができました。いつも笑顔で声をかけてくださった修一さん、大変お世話になりました。写真は、屋根葺き工事の時の一コマです。 合掌



9月の掃除当番は、安居智紀さんです。お世話様ですがよろしくお願いたします。



清浄光はインターネットでもお読みいただけます

世のなか 安穏なれ





お寺めぐり(タイ) ワット・アルン

真夜中に目が覚めて、ホテルの窓から外を見ると、息を呑むような美しい仏塔の姿に釘付けになりました。

バンコクの中心部を流れるチャオプラヤー川のほとりに建つワット・アルン、通称「暁の寺」です。このお寺を紹介するのは、実は清浄光二六五号に続いて二回目です。前回は、学生時代に貧乏旅行で初めて訪れた時の記憶を書いたものでしたが、四〇年近い年月が過ぎ、タイは目を見張るような経済発展を遂げ、街は大きく変貌しました。川にはたくさんの船がひっきりなしに行き交い、高級ホテルやショッピングセンターが立ち並び、昼間にワット・アルンにお参りした時は、海外からの観光客でごった返していました

た。初めて訪れた時の、のんびりした雰囲気は全くありません。暑さと人の多さに疲れ果て、ホテルの部屋に戻って、カーテンも閉めずにベッドに倒れ込むように眠りに落ちてしまいました。ふと目が覚めて時計を見ると真夜中の三時。そして窓の外を見て驚きました。昼間の喧騒はすっかり消えてなくなり、川は静かなさざ波をたてるばかり。その静けさの中に神々しいワット・アルンの仏塔がドッカーンと輝いていました。時間の経つのも忘れ、いつまでも見つめていたいと思えました。至福の時とはこのことを言うのでしょうか。この世の浄土のような姿を、この高揚感を、この感激を忘れないように、しっかりと目や脳裏や身体に焼きつけようと、夜明けまでずっと眺めていました。

(住職)



住職の星空案内

暑かった夏、早く涼しくなっほしいものです。さて、九月七日(日)の真夜中、一二時を過ぎて日付が八日に変わった深夜から夜明け前にかけて皆既月食が見られます。皆既月食とは月が地球の影の中に入ってしまうことで、一時半頃から少しずつかけ始め、二時半頃には月全体が影の中に入ってしまうのです。太陽の光が届かず真っ黒になるのかといえば、そうではなく、地球の空気の中を通った光が屈折して月の表面に届くので、うっすらと赤く輝くことが多いです。ところが、火山の噴火があつたり、何らかに理由で地球の空気が汚れたりしていると、月に光が届かず、ほとんど真っ黒になることもあります。月食の色は地球の健康のバロメーターでもあるのですね。

くいずクイズ QUIZ

今月は、迷路です。リスさんは、無事にドングリを手に入れられるかな？

